

城を守つた。数年の後罪を得、前田利家に七尾城で謁して赦に留り、信長の歿後縁五千俵を受け、次いで柳瀬の役に戦功あり、二千俵を加へ、翌年前田秀繼と共に津幡城を守り、末森の役に出陣し、十三年秀吉越中討伐の爲北下の際、加賀松任の目代とし、租入四萬石を管せしめられた。居ること三年で罷め、破増して五千石に至り、退老の後長子秀澄の千石を食み、慶長十六年歿。子孫代々藩に仕へる。

テラニシマサノブ 寺西正信 享保三年父又八郎の遺知二百三十石を襲ぎ、後櫻田御前附御用人となり、五十石を加へ、延享二年七十四歳を以て歿した。

テラニシマツヒデ 寺西松秀 通稱九兵衛。治兵衛秀則の弟。織田信長に仕へて尾張寺西村に居り、前田利家の妹を室とした。その子に與市郎秀長がある。

テラニシヨウケン 寺西養見 金澤の町外科で、享保十八年七月歿。その子理伯亦養見の名を嗣ぎ、同じく町外科を業とし、寶曆十年七月歿した。

テラノデ 寺ノ出 鳳至郡山岸の内の小字。

テラノヒラ 寺平 テラン ジャラ 鳳至郡二又川の内の小字。

テラバタケ 寺畠 能美郡徳橋郷に屬する部落。

テラフキヨウ 寺奉行 元和四年十月二十八日能登總持寺に建てた制札の文中に、寺奉行の語が數所に見える。後の寺社奉行が起る初であらう。

テラフン 寺分 鳳至郡上町野郷に屬する部落。もと宇加塚なる大乘寺の寺百姓であつた。能登名跡志に「寺分村近し。此所は此寺

の百姓なりし名也。」とある。

テラマチ 寺町 河北郡鞍月庄に屬する部落。

テラヤマ 寺山 江沼郡大聖寺から南に距ること四軒許、曾字領にある山で、嶺上に觀世音がある。

テラヤマ 寺山 羽咋郡聖川の内の小字。

テラヤマ 寺山 鳳至郡下町野郷に屬する部落。各所に分散して、阿別當・五輪・杉木・大窪・北口・堂ヶ口・猿ヶ馬場・河原谷内・中谷内の名がある。

テラヤマガハ 寺山川 鳳至郡寺山領山から發して大野川と合流する。

テラキ 寺井 能美郡板津郷に屬する部落。この邑の奥野八幡神社に胸高周圍六米の巨松がある。三宮古記近年水引神人沙汰進分事の條に、「河より南方、寺井・安宅・福富」とあり、白山三社御供用途事の條には、「合五十一貫文者、右所進上之狀如件。正和元年四月廿六日、寺井市住」と見える。

テラキクタニ 寺井九谷 天保中陶工庄三が能美郡寺井に於いて磁器に着番してから、以後その地附近に製作せられるものをいふ。

テラキクチ 寺井口 朝倉義景の八月十五日附、有賀桑六(直政)宛所の感狀に、「去卯月十八日於加賀國能美郡寺井口合戦之時首一討捕之云々」とある。この戦の年紀は未詳である。

テラキジヨウ 寺井城 能美郡寺井にあつた。寶永誌にこの村領に城跡があつて、安井左近といふ者が居住したといふが、今は田地となつて居るとある。

テララカツアキラ 寺尾克灼 字は知若。

龍川有父に算學を習ひ、立圓五十問答術集の著があり、大正正慎之が校訂に當つてゐる。克灼は後に川崎氏を冒した。

テラヲケンエイ 寺尾賢英 石川郡金石石眞宗東派妙覺寺の僧。初め金澤淨照寺に生まれ、字は鳳隨、欣笑院と稱し、明治の初寮司に任せられ、三十五年八月三十一日寂、享年不詳。大正十三年擬講を贈られた。

テラヲシロベエ 寺尾四郎兵衛 元佐久間盛政の臣。賤・縁役の翌天正十二年前田利長に仕へて、加秩七百俵に至り、次いで慶長五年利長に従うて大聖寺城攻撃に出陣し、大普厚用に續いて敵城正門外廂屋上へ懸登奮闘し、此の時加恩三百石を受け、六年氏を生田と改めた。子孫富山藩に世襲する。

テヲノハジメ 手斧初 大工の仕事初をいふ。藩政の時正月二日の未明から之を行つた。

テンアンセンシヨ 天庵禪隱 曹洞宗の僧。能登の人。初め永光寺の明峰素哲に従うて祝髮し、無等懸崇によりて進究したが、遂に永光寺に晋み、總持寺に轉じ、加賀の開禪寺に退いて示寂した。

テンエキジンヤ 天易侍者 トトガシヤス トシ 富樫泰俊。

テンオウ 天翁 加賀藩祖前田利家の兄五郎兵衛安勝の法號。詳しくは天翁道清居士。

テンガイチ 天下一 天和二年八月の加賀藩の令に、町方で諸事天下一と稱することを停止するとある。

テンガイドクリユウ 天外獨龍 金澤曹洞宗寶圓寺廿三代の住持。生國は越後。寛政元年十一月長州秋吉自任寺より進山し、九年十一月隱居、文化元年正月十三日遷化した。

テンガイヤマ 天涯山 菅生石部神社所藏應永二十年十一月二日預所筑前守知誠判書の中に、「山一所天涯山、東限湖上、南限風沙門堂林、西北限大道。右伴田地山畠等者、重代相傳富樫庄預所分也云々」とある。この天涯山は江沼郡柴山湖畔であらうが、位置は明らかでない。

テンガダニ 天賀谷 河北郡山上春日社(今小坂神社)の境内に在る。龜尾記に、「この地古へ台密の佛開多かりけん、今も獨鈷・金佛など掘出すことありと春日の社家語りき。されば天賀谷の名も天蓋谷の意にて、旗・天蓋を捨てし合ならんか」と記してゐる。

テンガハヤマ 天川山 鳳至郡石休場の部落から東方に在る山。高さ四五七米。地質輝石安山岩。

テンカンセキ 天漢石 石動山天平寺に於いて神石として尊ばれたもの。動字石ともいふ。能登名跡志に「石動山は二宮より一里半登るなり。一國第一の高嶺なり。昔此山は天より星落ちて石となる。天漢石と號す。今講堂の前に在。」又縁起には、「往昔星天より墜ちて三石に割れ三方に散る。その一は大日本北路州能登國金剛證大寶藏宮に落つ。この石を動字石と名づく。これあるが故に石動山といふ。」とある。しかし隕石の類ではなく、輝石安山岩たるに過ぎぬ。

テンガンボンドウ 天巖梵童 石川郡曹洞宗大乘寺四十九代の住持。信濃の人。寶曆十年信濃眞麟寺峯雲によつて出家し、天明五年同國興松寺太屋の隨意會に首職であつた。同年峯雲に傳法を受け、六年相州長安寺に住み、寛政二年永平寺に瑞世し、八年眞麟寺に移り、